



資料 2

令和8年度第1回 宮崎県介護現場革新会議

説明資料



目 次

- 1 本県における生産性向上の取組方針について
- 2 ひなた介護DX支援センターの運営方針について
- 3 その他

目 次

- 1 本県における生産性向上の取組方針について
- 2 ひなた介護DX支援センターの運営方針について
- 3 その他

本県における生産性向上の取組方針について

1 介護現場における生産性向上の取組の推進

- ひなた介護DX支援センターにおいて、介護テクノロジーの導入・活用や業務改善に係る相談対応、機器の展示・試用貸出、有識者派遣等の支援を実施

2 介護テクノロジーの活用促進

- 介護テクノロジー導入支援補助金による導入支援を通じ、介護事業所における介護テクノロジーの活用を促進

3 好事例の横展開による県内事業所への取組の普及促進

- 好事例リーフレットを作成し、ホームページ等で紹介するほか、事例交流会を開催し、伴走支援事業所が取組について発表するなど、取組の横展開を通じて県内の事業所全体へ生産性向上の取組を波及

介護生産性向上総合事業

長寿介護課 31,470千円

【財源：医療介護確保基金】

事業の目的

介護事業関係者が参加する介護現場革新会議を開催し、介護事業者の相談窓口である介護生産性向上総合相談センターを設置・運営するとともに、人材育成等に取り組む事業者を認証する制度を実施することで、介護現場における生産性向上や人材確保の取組を推進する。

事業の概要

(1) 事業内容

① 介護現場革新会議の開催 666千円

介護現場における課題への対応方針や、介護生産性向上総合相談センターの運営方針などの検討を行うための会議を開催する。

② 介護生産性向上総合相談センターの運営 25,434千円

介護事業者からの生産性向上に関する相談を総合的に受け付けるワンストップ窓口を設置するとともに、介護ロボットの展示・貸出、伴走支援・有識者派遣による課題解決や、関係機関との連携により支援等を行う。

③ 認証評価制度の運営 5,370千円

人材育成等に取り組む介護事業者に対する認証を行う。

(2) 事業の仕組み

① 県 ②③ 県 委託 民間企業等

(3) 成果指標

介護保険施設の介護ロボット又はICT導入率

R5年度 80.6% → R8年度 100.0%

認証事業者数 R8年度 100事業者



事業の期間

令和6年度～令和8年度

介護テクノロジー導入支援事業

当初

長寿介護課 333,300千円

【財源：国庫、一般財源】

事業の目的

介護ロボットや介護ソフト等の導入を支援することで、介護職員の負担軽減や業務効率化など働きやすい職場環境を整備し、介護人材の確保及び定着を図る。

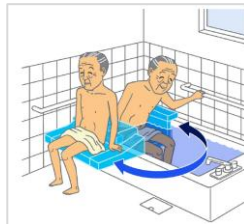
事業の概要

(1) 事業内容

- ① 介護ロボットの導入支援 141,600千円（補助率4／5以内）
介護職員の身体的負担の軽減や業務の効率化に資する介護ロボットの導入を支援
- ② ICT等の導入支援 110,000千円（補助率4／5以内）
介護記録から請求業務までを一体的に処理できる介護ソフト及びタブレット端末等の導入を支援
- ③ パッケージ型導入支援（補助率4／5以内）
 - ア 介護テクノロジーのパッケージ型による導入 62,500千円
介護ロボットやICT機器等を複数組み合わせたパッケージ型による導入を支援
 - イ 見守り機器の導入に伴う通信環境整備 19,200千円
見守り機器を効果的に活用するために必要となる通信環境の整備を支援

(2) 事業の仕組み

①～③県 補助 民間企業等



(3) 成果指標

介護サービス事業所における介護ロボット又はICTの導入率 26.5%(令和7年) → 35.0%(令和8年)

事業の期間

令和8年度

好事例の横展開

モデル施設育成事業（令和6年度）

地域のモデルとなる施設を育成し、モデル施設における好事例の横展開等を通して、介護現場における生産性向上の取組の推進を図ることを目的として、以下のモデル施設における介護テクノロジーの導入等を支援。

- ① 介護老人保健施設シルバーケア野崎ほか（宮崎市）
- ② 特別養護老人ホームひなもり園（小林市）
- ③ 特別養護老人ホーム立縫の里ほか（日向市）

⇒ 施設ごとにと取組概要を作成、県HPで周知
⇒ 他事業所の見学受入れ

法人・事業所概要

社会福祉法人立縫会

所在地：宮崎県日向市

モデル事業所：

- ・ 特別養護老人ホーム立縫の里
（介護老人福祉施設、短期入所生活介護）
- ・ グループホーム静妙庵
（認知症対応型共同生活介護）
- ・ 立縫の里デイサービスセンター
（通所介護）



導入したテクノロジー

導入機器

導入機器の種類	導入機器（製品名）
移乗支援	HUG（移乗サポートロボット）
移乗支援	床走行リフト（介護リフト）
移乗支援	天井走行リフト（介護リフト）
見守り	aams（センサーマット）
排泄支援	Helppad2（排泄センサー）
排泄支援	FUNレストテーブル （前傾姿勢支持テーブル型手すり）
介護業務支援	ケアコム（ナースコール）と Notice（記録システム）の システム連動



好事例の横展開

専門家による伴走支援（令和7年度）

モデルとなる介護事業所の取組を創出するため、専門家の派遣等による長期的な伴走支援により、生産性向上の取組内容やノウハウを横展開することを目的として以下の事業所における取組を支援。

- ① 特別養護老人ホームひえいの郷（延岡市）
- ② 介護老人保健施設相愛苑（小林市）
- ③ 特別養護老人ホーム敬寿園（延岡市）

⇒ 施設ごとに取り組概要を作成、県HPで周知
⇒ 取組内容を事業所が発表する「交流フォーラム」を開催（2月）
⇒ 県広報テレビ「おしえて！みやざき」放送（6月）

事例3 AI分析を活用した情報共有改革と業務改善

社会福祉法人 康生会
特別養護老人ホーム 敬寿園

所在地 延岡市昭和町 3-9-3
職員数 120名
事業内容 介護老人福祉施設（定員 135名）



事業所における課題

紙の記録や手書きメモを後からパソコンへ入力する二重入力が発生し、業務負担となっていました。また、情報が複数のフォルダや資料に分散していたため、必要な情報の検索に多くの時間を要していました。さらに、委員会は集合形式でしか協議できず、欠席者の意見を反映しにくいことから、検討や意思決定が進みにくい状況でした。

業務改善の取組

まず、Googleフォームで全職員から困りごとを収集し、カスタムGPT (AI) を活用して課題を整理・可視化しました。
次に、委員会運営にプロジェクト管理ツール「Trello」を導入し、月1回の集合会議中心の運営から、随時進捗を共有・協議できるオンライン運営へ転換しました。
また、Googleサイトで「敬寿園ポータルサイト」を構築し、各種資料や業務情報を一元化するとともに、二重入力や紙運用の見直しなど16項目の業務改善を実施しました。

aams管理画面

取組の効果

ポータルサイトに資料や各種情報を集約したことで、必要な情報を迅速に検索・閲覧できる環境を整備しました。利用者の体重測定結果やショートステイ報告書なども掲載し、情報の一元化を推進しました。
Googleフォームを活用した制服注文では、約100名分の注文をスマートフォンで受け付け、自動集計することで、業務時間を1回当たり約6時間削減しました。また、希望休申請についても毎月約10時間の業務削減につながりました。
利用者120名分の体重測定では、紙への記録とExcel・介護記録システムへの二重入力を廃止し、現場でタブレット入力する運用へ変更した結果、作業時間を4時間から1.5時間へ短縮しました。このほか、物品発注管理や入浴表作成についても自動化を進め、業務負担を大幅に軽減しました。
委員会では、Trelloの活用により会議時間を1時間から30分へ短縮するとともに、時間や場所を問わず意見交換ができるようになり、参加状況に左右されない活発な協議が実現しました。



敬寿園ポータルサイト

取組後の感想

アドバイザーの伴走支援により、課題整理から改善までの進め方が明確になり、AIやGoogleサイトなどのデジタルツールを活用した業務改善に取り組みました。今回構築した仕組みを定着させ、継続的な業務改善につなげていきたいと考えています。

アドバイザーからのコメント

ポータルサイトに「利用者申し込み」機能を設けたことで、今後は情報を一元管理し、誰もが必要な情報を迅速に確認できる運用を目指しています。今回の取組はデジタル化だけでなく、「課題を整理し、改善を進める手順を組織として身に付けたこと」が最大の成果であり、組織全体の改善力向上につながったと感じています。



介護事業に関わる皆様へ

定員
80名

※定員に達し次第
締め切ります。

受講料
無料

介護事業所の

生産性向上に向けた 交流フォーラム

2026
2/25 水

会場 KITENビル 8F
大会議室
宮崎市錦町1番10号

時間 12:45~16:00
[受付 12:00~]

交流フォーラム スケジュール

<p>12:00~ 受付開始</p> <p>12:45▶13:00 開会・オリエンテーション</p> <p>13:00▶14:30 第一部 伴走支援 事例紹介ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性向上ガイドラインを「デジタル」×「AI」で加速させる！ 医療法人相愛会 介護老人保健施設 相愛苑 現場が自走する組織へ！ AI×Trello×Googleで実現した 16箇の生産性向上 半年の軌跡 社会福祉法人康生会 特別養護老人ホーム 敬寿園 1か月で実現するタイムスタディから始まる 「利用者とスタッフとウェルビーイング最大化」 社会福祉法人川水流福祉会 特別養護老人ホーム ひえいの郷 <p>14:30▶14:40 10分休憩</p>	<p>14:40▶16:00 第二部 基調講演</p> <h2 style="color: red;">2027年度義務化に備える 生産性向上委員会設置への カウントダウン</h2> <p>～介護テクノロジーの導入前にやるべき、 生産性向上の実務ステップ～</p> <p>講演内容 ・介護テクノロジーの導入前にやるべきこと ・生産性向上ガイドラインの重要性 ・他県の成功事例 ・現場が自走する伴走支援</p> <p>第二部 講師 さし たか 隆之 氏 合同会社オートケア</p> <p>介護ITインストラクター DXアドバイザー 北九州ロボット・DX推進センター専門家 北九州市において、養護施設メーカー、福祉利用事業を経営し、国立大学法人九州工業研究大学院生命工学学科井上創造教授と合同会社オートケアを設立。 介護ITインストラクター養成、DXコンサルティングなど介護業界の業務改善、IT化を支援、現場の視点に立ったアドバイスや、すぐに活かせる実践的な支援を提供され、多くの現場から支持を集めておられ、九州各地で活躍されています。今後の生産性向上に向けた取組のために活かしていただきたい講演です。</p>
--	---

問合せ先 **ひなた介護 DX支援センター**
〒880-0812 宮崎市高千穂通2丁目1番2号 総務課3ビル4階

委託先：(公財)介護労働安定センター 宮崎支部
TEL.0985-31-0261 FAX.0985-31-0335

宮崎県からの情報もたくさん！ 合言葉は「県民総力戦」です。

みやざき

毎週土曜日 夕方4時30分～



これからの放送 次回の放送予定▶ これまでの放送▶

おしみや動画一覧はこちら▶

6月13日

みんなで食べよう！県産しいたけ

宮崎の豊かな山林が育む「原木しいたけ」。その最前線を支える県林業技術センターの研究現場と、「宮崎県産乾しいたけ」が食べられるお店にお邪魔し、原木しいたけの魅力に迫ります！

6月20日

「ひなカイ」で目指せ！介護現場の生産性向上

『ひなた介護DX支援センター』、通称『ひなカイ』では、ロボットやICT導入による業務改善を専門家がサポートしています。実際に『ひなカイ』を活用して現場を変えた施設に密着し、介護の未来を拓く取り組みをご紹介します！

6月27日

消防女子、目指しませんか？

女性消防士のさらなる活躍を応援するため、県消防学校に女性専用寮「ひなた寮」が完成！県内で活躍する女性消防士の姿を追いながら、より働きやすい環境への進化と、夢に向かって挑戦する女性消防士のリアルな姿をお届けします！

**「ひなカイ」で目指せ！
介護現場の生産性向上**



**スマホから音声入力した記録を
自動でパソコンに転送**

目 次

- 1 本県における生産性向上の取組方針について
- 2 ひなた介護D X 支援センターの運営方針について**
- 3 その他

ひなた介護DX支援センターの運営方針について

ひなた介護DX支援センターでは、以下の取組を行う。

- 1 介護事業所からの生産性向上の取組等に関する相談対応
- 2 介護事業所に対する伴走支援の実施、有識者の派遣
- 3 介護テクノロジーの展示・試用貸出
- 4 生産性向上の取組に関する研修会・展示会
- 5 その他

1 介護事業所からの生産性向上の取組等に関する相談対応

目 的

- 介護サービス事業所が抱える生産性向上（介護テクノロジーを含む）の取組に関する全般的な課題等を解決する。

実施概要

- 平日の9時から17時まで相談窓口を設置し、相談へ対応（土日祝日・年末年始除く）
- 事業所からの生産性向上の取組等に関する相談を受け付け、相談内容に応じて、事業所の抱える課題の解決に向けた助言や有識者の派遣、機器の試用貸出のほか、適切な支援先の紹介を行う。
- 人材確保や魅力発信、テクノロジーの活用等の業務改善以外に関する相談についても、関係する事業や実施機関等を紹介する等の対応を行い、相談者の課題が解決するよう支援を行う。

実績（R8.4.1～R8.8.31）

- ・ 相談件数 40件（4月：10件、5月：10件、6月：8件、7月：9件、8月：3件）
- ・ 相談内容 介護テクノロジー関係：14件、展示場見学関係：10件、業務改善関係：14件 ほか

2 介護事業所に対する伴走支援の実施、有識者の派遣

目 的

- モデルとなる介護事業所の取組を創出するための長期的な伴走支援等により、生産性向上の取組内容やノウハウを横展開する。

実施概要

【伴走支援】

- 介護事業所における業務改善の取組に対し、有識者を派遣するなどして長期的な伴走支援を行う。
- 伴走支援事業所は3事業所程度を選定し、1事業所につき有識者を6回程度派遣する。
- 研修会等を開催し、伴走支援を行った介護事業所の事例など、モデルとなる取組を県内の事業所に横展開する。なお、伴走支援を通じて行われた試行錯誤や失敗談等についても、生産性向上の取組に係るノウハウの取得につながるため、必要に応じて横展開の際に活用する。

【有識者派遣】

- センターへの相談のうち、生産性向上に向けた業務内容の見直しや介護テクノロジーの導入など必要に応じて、有識者を随時派遣し、助言等の支援を行う。

実績（R8.4.1～R8.8.31）

【伴走支援】

- 4事業所へ支援を実施（わかば（特養：都城市）、ゴールデンレイク（特養：宮崎市）、みどりの丘（老健：日南市）、ミューズの虹高原（特養：高原町））

【有識者派遣】

- 派遣回数 7件（その他実施予定が4件）

伴走支援事業所による取組

【取組概要】（令和8年度）

- ① 特別養護老人ホームわかば（都城市）
 - ・ 給与計算等のバックオフィス業務や記録業務をデジタル化し、業務効率化へつなげる。
 - ・ 外国人職員間の情報共有にAIを活用する。
- ② 特別養護老人ホームゴールデンレイク（宮崎市）
 - ・ 職員間の連絡・申し送りや、会議室の管理等の業務にAIを活用し、効率化を図る。
 - ・ 導入済みの介護ソフトや見守り機器を使いこなせていないため、機器を活用し、業務効率化へつなげる。
- ③ 介護老人保健施設みどりの丘（日南市）
 - ・ 手書きで行っている記録業務に導入済みの介護ソフトを活用し、効率化を図る。
 - ・ 生産性向上委員会で抽出された課題の解決へ向けた取組を進める。
- ④ 特別養護老人ホームミューズの虹高原（高原町）
 - ・ 手計算や紙記録で行っている事務処理のペーパーレス化を進めるとともに、職員全体がツールを使いこなせるようにする。

3 介護テクノロジーの展示・試用貸出

目 的

- 介護事業所等に介護テクノロジーに実際に触れ、体験してもらうことにより、機器の導入・普及を推進する。

実施概要

【常設展示】

- 平日 9 時 3 0 分から 1 6 時まで常設展示場を開設し、介護事業者向けに機器を展示する。
- 事業所のニーズに即した機器を展示するため、半年に 1 回程度展示機器の見直しを検討する。

【試用貸出】

- 開発企業と調整の上、貸出を希望する事業所に介護テクノロジーの試用貸出を実施する。
- 介護テクノロジーが事業所に適したものか確認し、効果的な活用につながるよう助言を行う。

実績（R8. 4. 1～R8. 8. 31）

【常設展示】

- ・ 来場者数 204名（うち介護事業所47名、一般157名）
- ・ 展示機器数 約40機器（見守り機器、移乗・移動・排泄・入浴支援機器、介護ソフト等）

【試用貸出】

- ・ 貸出件数 10件（移乗支援機器など）（その他、試用貸出に向けて調整中が3件）

4 生産性向上の取組に関する研修会・展示会

目 的

- 生産性向上の取組の必要性や取組の方法、先進的な事例等を広く普及・啓発する。

実施概要

【研修会】

- 生産性向上の取組手法（取組計画の策定、現場の課題の把握とそれに応じた取組方策、取組実施時の留意事項、取組による効果の把握等）の説明や双方型のワークショップ等による研修会を実施する。
- 研修会は、県内3会場ごとにそれぞれ2回ずつ（計6回）開催し、オンラインでの受講も可能。

【展示会・イベント】

- 展示場において、県内の介護事業所を対象とした介護テクノロジーの活用等による生産性向上に資するイベントを2回程度開催する。

実績（R8.4.1～R8.8.31）

【研修会】

- 県内3会場（宮崎、都城、延岡）でそれぞれ2回開催予定 ※募集中

【展示会・イベント】

- 常設展示場にて機器の展示・実演を行うイベントを計4回開催予定 ※募集中



日本の
ひなた
宮崎県

ひなた介護DX支援センター ひなカイ

介護生産性向上に向けた
セミナー&イベント

(介護ロボット・ICT機器展示会)

宮崎県委託事業



セミナー 受講料 **無料** 定員 各回**50名** 各回 **AI** 生成 AI 等の実例も紹介!

第1回目 シャドーAIから事業所を守る
「生成AI利用ガイドライン」づくり
～そのAI利用、大丈夫ですか?～

- 職員が自分の判断でAIを使う「シャドーAI」に潜む危険
- 生成AIを安全に使うためのルールづくり
- 無料版(ChatGPT、Gemini、Claude)でも可能な「AI」に学習させない設定方法
- 自事業所のガイドライン作成

職員の無断利用による情報漏洩リスクを防ぐため、AIにデータを学習させない設定手順を学びます。A4用紙2枚の雛形を使い、自事業所でそのまま使える安全なガイドラインを作成します。

第2回目 ガイドラインに基づいた生成AI利用の実践
～ルールがあるから踏み込める～

- 介護現場での業務別に付けたAI利用の決まりごと
- AI利用で分かるヒヤリハットの傾向と対策
- AI利用のルールをつつかり破ってしまった時の手順
- AI利用の定着と、続けていく仕組みづくり

業務を「経・費・赤」に色分けして安全な利用範囲を整理し、匿名化による入力実技やヒヤリハット分析を体験します。AIの誤りを見抜くコツや誤入力時の対処手順、事業所内でルールを定着させる仕組みづくりまで網羅します。

日時 受付13:00～ セミナー13:30～15:00 各会場共通

都城会場 第1回目 10月29日 第2回目 12月14日
都城市総合社会福祉センター
都城市松元町4街区17号

延岡会場 第1回目 11月10日 第2回目 12月8日
延岡市社会教育センター
(カルチャープラザのべおか)
延岡市本小路39番地1

宮崎会場 第1回目 11月9日 第2回目 12月9日
宮崎県福祉総合センター
宮崎市原町2番22号 人材研修館

講師 向江 隆行氏
株式会社 さくら未来研究所 代表取締役
プロフィール
2007年 ITコーディネーターの資格取得
2014年 中小企業診断士資格取得
2015年 宮崎県社会福祉協議会 専任職員より支援拠点コーディネーターとして勤務
2017年 2級キャリアコンサルティング技能士の資格取得
2020年 株式会社ヒーローズD設立。専務取締役に就任
2023年 株式会社さくら未来研究所に専任
代表取締役に就任

【宮崎県介護テクノロジー導入支援事業費補助金】を活用する場合は、同セミナーの受講が必要です(終了後に録画映像を視聴することも可能です)

展示会・イベント (介護ロボット・ICT機器) 展示会 10:00～16:00

展示機器の展示・実演を開催します。展示会は、どなたでもご自由にご覧いただけます。ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。また、同時開催のイベントは定員20名・事前申込制となっております。参加ご希望の方は、お早めにお申し込み下さい。

場所 宮崎県福祉総合センター 人材研修館 1F 展示場にて 宮崎市原町2-22

10月16日(金) AM 10:00～11:30 (1.5h) イベント 移乗・移動①
PM 13:30～15:30 (2h) イベント コミュニケーション・レクリエーション・認知機能

11月9日(月) AM 10:00～11:30 (1.5h) イベント 介護業務支援
PM 13:30～15:00 (1.5h) セミナー 上記宮崎会場にて専門セミナー開催

11月26日(水) AM 10:00～11:30 (1.5h) イベント 移乗・移動②
PM 13:30～15:30 (2h) イベント 入浴・排泄・その他

12月9日(火) AM 10:00～11:30 (1.5h) イベント 見守り
PM 13:30～15:00 (1.5h) セミナー 上記宮崎会場にて専門セミナー開催

受講申込書

FAX 0985-31-0335
または
E-mail miyazaki@kaigo-center.or.jp

ひなた介護DX支援センター 宛

申込日: 令和 年 月 日

「セミナー&介護ロボット・ICT機器 展示会イベント」参加申込書

セミナー 各会場 定員**50名** 13:30～15:00 オンライン動画配信あり **事前登録制** ※一般の方はご遠慮ください。
ご参加希望に ☒ をしてください ※1日につき2名まで参加可能

会 場	開 催 日	参加者名 ※1日につき2名までご記入ください。	
都城会場 (都城市総合社会福祉センター)	① 令和8年10月29日(木)		
	② 令和8年12月14日(月)		
延岡会場 (延岡市社会教育センター (カルチャープラザのべおか))	① 令和8年11月10日(火)		
	② 令和8年12月8日(火)		
宮崎会場 (宮崎県福祉総合センター)	① 令和8年11月9日(月)		
	② 令和8年12月9日(水)		
オンライン動画配信	① 令和8年11月18日(水)～12月2日(水)		
	② 令和9年1月8日(金)～1月22日(金)		

※オンライン動画配信は1名まで

展示場 イベント 各回 定員**20名** ※詳細は改めてご連絡いたします。
ご参加希望に ☒ をしてください ※1つのイベントにつき2名まで参加可能。また、複数イベントに参加可能。

開 催 日	イベント内容	参加者名 ※1イベントにつき2名までご記入ください。	
令和8年10月16日(金)	午前の部 移乗・移動①		
	午後の部 コミュニケーション・レクリエーション・認知機能		
令和8年11月9日(月)	午前の部 介護業務支援		
	午後の部 移乗・移動②		
令和8年11月26日(木)	午前の部 入浴・排泄・その他		
	午後の部 見守り		
令和8年12月9日(水)	午前の部		

法人名	所在地(〒)		
事業所名			
サービス種類	職員数(総数)		
TEL	—	FAX	—
メールアドレス	@		
ご担当者	役職	氏名	

※1事業所2名まで申し込み可能です。(それ以上の場合は、表面の問い合わせ先までご相談ください。)
※申込書に記載された内容については、当センターの個人情報管理規定に従い厳重に管理し、相談支援に必要な範囲で使用のほか、当センターの事業ご案内に使用させていただきます。それ以外の目的には使用しません。
※相談内容は秘密厳守いたします。

令和7年度の事業を踏まえた改善策の実施

介護事業所からの生産性向上の取組等に関する相談対応

- センターの支援内容をイメージしやすいよう、センターのチラシに事業所へ支援を行った内容を記載し、介護事業所へのさらなる周知に取り組む。
- 各団体の会議等の機会を活用して、交流フォーラムのチラシを事業者へ配布いただくなど、センターの周知に協力いただく。

介護事業所に対する伴走支援の実施、有識者の派遣

- 伴走支援を実施した各事業所の取組概要をまとめた事例集を作成し、県内事業所へ横展開することで、支援内容の周知・普及に取り組む。

生産性向上の取組に関する研修会・展示会

- 研修会の中でグループワークの時間を設け、受講者間での情報交換を行うことができるようプログラムを組む。
- 研修会の前後でモデル施設や伴走支援事業所の取組概要を紹介するなどして、生産性向上の取組によりどのような効果があるか受講者へ周知を図る。

目 次

- 1 本県における生産性向上の取組方針について
- 2 ひなた介護DX支援センターの運営方針について
- 3 その他**

その他

取組に係るKPIの変更について

【概要】

取組に係るKPIのうち、
「介護保険施設における介護テクノロジー導入率」 89%（R6年度） → 100%（R8年度末）
を
「介護サービス事業所における介護ロボット又はICTの導入率」 26.5%（R7年度末） → 50.0%（R11年度末）
へ変更することを検討

【理由】

現行のKPIでは、対象事業所を介護保険施設に限定しているが、実績が目標値近くになったことや、全ての介護サービス事業所への介護テクノロジーの導入を推進する必要があることから、対象範囲を広げ、それに伴い導入率を変更するもの。

合わせて、次期計画（第10期宮崎県介護保険事業支援計画）におけるKPIとしても、同項目の設定を想定。

取組に係るKPI（現行）

- ① 介護保険施設における介護テクノロジー導入率：89%（R6年度） → 100%（R8年度末）
- ② 伴走支援事業所における成果：生産性向上の取組の成果（時間外勤務の縮減等）と同等の効果を創出
- ③ ひなた介護DX支援センターにおける相談対応件数：年間80件
- ④ ひなた介護DX支援センターが実施する研修会の受講者数：年間200名（オンライン受講含む）